

シリーズ

“キラリ企業”

の現場から 第61回

会社のさまざまな支援サービスをご利用いただいている元気企業を紹介する“キラリ企業”の現場から。第61回は、動的ストレッチマシン(注1)の開発販売及びフィットネス全体の事業展開を行う是吉興業株式会社(板橋区)を紹介します。同社には「事業可能性評価事業」(注2)「革新的技術の事業化支援事業」(注3)など多数の公社事業をご活用いただいております。

日本のオフィスに健康を提供！

是吉興業株式会社

■筋肉を「鍛える」のではなく「ほぐす」

是吉興業株式会社は、スノーボードの元プロ選手であった向川是吉社長により平成15年6月に設立され、現在、都内3施設、大阪市内1施設にて会員制フィットネス整体「ホグレルスペース」を展開している。動的ストレッチマシン「ホグレル機器」を使用すれば、日常のストレッチでは伸ばしにくい肩甲骨や股関節の筋肉をほぐし、まわりの筋の伸展性や弾力性を高め、関節の可動域を広げることができるという。これが、バランスの良い姿勢への改善に繋がる。

会員は1店舗あたり150名までとし、ビジネスマン、OL、スポーツ選手等が利用している。また、全国の整形外科や治療院などでも「ホグレル機器」が採用され、高い評価を得ている。



ストレッチマシン「プルオーバー」

■アスリートから法人設立へ

スノーボードアルペン競技のプロ選手であった向川社長(当時25才)は、様々な筋力トレーニングやイメージトレーニングを行ってきた。しかし、筋力がアップしているにも関わらず、「体が重く、思うように動かない」「バランスが悪い」。体の見た目とは裏腹に、競技大会でのレース結果は散々であった。

そして試行錯誤のトレーニングが始まった。体の大きい外国人には太もやふくらはぎ、腕などの末端の筋力では対抗できない。それに頼らなくても大きな力を得るにはどうしたらいいのか?筋力トレーニング、ストレッチ、ヨガ、呼吸法、イメージトレーニングとあらゆる方法を試した。その結果、インナーマッスル(深層筋)を動かし、ほぐしていくトレーニング方法にたどりついた。この方法により、向川社長は一気に世界ランキング入りを果たした。このトレーニングを継続すれば世界で勝てるという確信があったが、当時の向川社長には時間と活動資金が不足していた。競技シーズンの半年は世界を飛び回っているため、残りの半年間で約150万円の活動資金を捻出しなければならなかったからである。

そうした中で向川社長はついに30歳で現役引退を決意した。自身の経験も踏まえ、次代を担うスポーツ選手の競技環境をサポートするため、「あのトレーニング方法を具現化したジムをつくりたい!」との思いから、大学の後輩である星野副社長と同社を設立した。

■オフィス街に「フィットネス整体」を

お金・事務所・売る商材もないゼロからのスタートで、まずは資金を稼がなければならなかったが、たまたま通信業界の代理店ビジネスに出会い、毎日地道に営業を続けた。その



向川社長



ホグレルスペースの様子

結果、設立3年半後ようやく資金の目処がたった。また、向川社長はこの通信業の仕事で都内の会社を毎日訪問していたときに、顧客に「肩こり」や「腰痛」持ちでストレスを感じている人が非常に多いことに気付いていた。インナーマッスルを動かし、ほぐすことで体が楽になる人は沢山いるのに、そういう場所が全くないと思った。そこで、「都会で働く人が元気になるための空間」を自分が提供し、それぞれの体を見つめ直してほしいとの思いで「ホグレル機器」を開発し、「フィットネス整体」をオフィス街に作ったのである。

■ 公社の支援メニューを活用した事業展開

向川社長は、同社のビジネスモデルについて第三者に評価してもらい、今後の事業展開の参考にするため、公社の支援メニューのひとつ「事業可能性評価事業」を利用した。平成20年1月の事業可能性評価委員会において、同社のビジネスプランが「事業の可能性あり」と評価され、公社の支援を受けることになる。担当マネージャーからの各種支援メニューの紹介により道筋がたったことで、事業展開に大いに役立った。

また、「白鬚西R&Dセンター(注4)に入居できたことも非常に大きかった」と向川社長は話す。そしてこれとほぼ同じくして、公社支援メニューの「革新的技術の事業化支援事業」に採択された。事業を展開していくうちに、「ホグレル機器」の販売に際し、実証データ取得及びマシンの小型化の必要性を感じており、本事業により、従来のマシンの改良や、大学と共同で実証データを取得するなどの各種研究に助成を受け、非常に助かったという。

そして今年の7月、バラバラであった本社事務所(小伝馬町)・開発拠点(白鬚西R&Dセンター)・倉庫(水天宮)の機能を新本社事務所へ移転統合したことにより、業務の効率が大幅にアップ。現在は「フィットネス事業」としてサービスを提供するだけでなく、「メーカー」として、「ホグレル機器」の改良にも力を入れている。

■ 「いつでも、どこでも、誰にでも」

向川社長は、「スポーツ選手にスポーツを継続する意欲を与えられる機器とサービスを提供したい」と話す。女子サッカーワールドカップのなでしこジャパンが好例であるが、

国内外のスポーツ大会において、日本人の活躍する大会は国内への経済的影響が大きく、国民に元氣も与えてくれるからだ。また前述の「ストレスを感じないで仕事に取り組めるオフィス空間を作りたい」というのはもちろんのこと、更には「より多くの人元氣な長寿生活を楽しめる社会を提供したい」と考えている。高齢化が進む社会において、長寿者がいつまでも元氣で自立して生活していけるようにするためには、自分で動いて筋力を維持することが重要である。そこで今後は、既存のサービス提供先の他、「元氣な長寿者」を増やすべく、「ホグレル機器」が長寿者にとってケガ予防・老化防止の一助となるよう社会貢献ができれば、と今後の展望を話す。

「『いつでも、どこでも、誰にでも』をモットーに、『ホグレル機器』の事業展開を行い、オフィスや東京が元氣になり、そのパワーがスポーツ



向川社長とスタッフ

の環境整備や発展につながる事を願っている」と語る向川社長の笑顔が印象的であった。更なる飛躍に期待したい。

(事業戦略支援室 戸村 克彦)

(注1): 負荷が軽く、かつ、筋の伸張と収縮を素早く行うことにより、リラックスしたまま運動ができるマシン

(注2): 新たな事業展開を目指す中小企業や創業を目指す方に対し、新規事業の可能性について評価を行い、成長性が高い事業プランに対しては継続的な支援を行う事業

(注3): 事業の可能性が高い革新的な新技術を持ちながら、実証データ等の不足のため、開発した製品等の事業化が進まない中小企業に対し、実証データ取得や製品改良等に要する経費の一部を助成するとともに、事業化に向けたハンズオン支援を行う事業(H21で新規募集は終了)

(注4): 白鬚西共同利用工場施設(荒川区南千住)のうち空区画となっている区画を活用し、創業間もない中小企業者や技術開発もしくは研究開発等を行うとする中小企業者に対し、創業支援施設として提供する事業

企業名: 是吉興業株式会社

代表者: 向川 是吉

資本金: 2,412万円 従業員数: 35名

本社所在地: 東京都板橋区大原町36-18

ホグレルビル

TEL: 03-5970-7833

FAX: 03-5970-7878

URL: <http://www.hogrel.com>